

十二日に、布勢の水海に遊覧するに、多祜の
浦に舟泊まりし、藤の花を望み見て、
各 懐を述べて作る歌四首

四一九九番

藤波の影なす海の底清み 沈く石をも 玉と
そ我が見る

四二〇〇番

多祜の浦の底さへにほふ 藤波を かざして行
かむ 見ぬ人のため